



2015 September

特集

おむすび 結んで



地球好日

この人に聞きたい

日本遺産の旅

台湾

役所広司

広島 尾道

文 | 松尾文夫 (ジャーナリスト)

「おにぎり」の品格

あの日の朝の「真ん丸い白い大きなおにぎり」

昭和八年八月生まれの私が「おにぎり」について書くとなると、どうしても70年前にあのみじめな敗戦で終わった太平洋戦争の時代にまでさかのぼらねばならない。

私が強く思うのは、「おにぎり」という存在があるところ持っていた地位の高さである。というところからいけば、「商品」になつていなかった時代の「おにぎり」の品格といえよだろうか。コンビニはもとより、駅ナカ、デパ地下、どこでもきれいな三角形に握られた「おにぎり」がいつでもどこでも手に入る時代への違和感の告白と言つてよいかもしれない。

私がよく通る東京・小田急新宿駅の山手線との連絡口につながる地下二階の改札口のすぐ横では、多くの種類の「おにぎり」のみならず、インスタント

味噌汁やきんぴらごぼう、コンニャクや里芋の煮つけといった少量の惣菜も一緒に売っている専門店が繁盛している。買ったあとそこでたべるコーナーもあり、持ち帰りの注文もすごいスピードでこなしてくれる。

告白すると、二年前に家内をなくした私にとっては、新宿からのおみやげの上位に位置する。「おにぎり」独特のコメの香りを発する袋をさげて、小田急の各駅停車の老人席におさまった時、よく思い出すのがあの戦争での「真ん丸い白い大きなおにぎり」との出会いである。

必ず人の手で握られ、決して売られてはいなかった時代の「おにぎり」、つまり「おにぎり」が親子、夫婦、兄弟、あるいは祖父母とその孫といった家族のきずなの輪の中で、様々な形の愛情をこめて、

その媒体として握られていた時代への郷愁の記録でもある。

一九四五年七月十九日夜、当時は国民学校と呼ばれた小学校の六年生だった私は疎開先の墳墓の地、福井市でアメリカ軍のB29爆撃機百二十七機による残忍な「夜間無差別焼夷弾爆撃」を受け、幸運にも生き延びた。爆撃は真夜中に始まった。

家の庭先に落ちた焼夷弾のおかげで真昼のように明るくなる中を、三十六歳だった母を中心に弟、妹、叔母、従姉妹たち十二人でひたすら郊外へと逃げた。既に道の両側の家並みからは火の手が上がっており、北陸特有の紅ガラ塗りの板塀がめらめらと不気味な色の炎を上げていた。

これから先は水田という芋畑の敵にただただ伏せていると、空から大きなものが落ちてくる音がした。身構えて隣の母親の手を強く握った瞬間、防空頭巾の頭上に水田の泥しぶきがいやというほど降ってきた。これが命拾いの瞬間だった。当時、B29は、後のベトナム戦争ではナパーム弾と呼ばれる消火不能な強力な焼夷弾三千八発を詰めた親爆弾を投下、高度二百メートルで開いて、地上のすべてを焼き払う残酷な作戦を展開していた。この親爆弾がなぜか欠陥爆弾で、計画通り開かず、そのまま水田に落ちたのだ。夜が明けて、彼らが去り、黒焦げの死体や福井城の堀を埋めた水死体に息をのみながら自宅に戻ると、石の門柱二本だけを残して、すべてが姿を消していた。

駆けつけてくれた菩提寺の住職の案内で、岐阜県境に近い大野市にいまも残る曹洞宗第二の名刹、宝慶寺へと、一家でとぼとぼと歩きだし、爆撃をのがれた竹林が美しい村に入った途端、満面の笑みを浮かべた村人たちにとりかこまれ、そつと差し出されたのが、大きな箱に何列にもならんだ「真ん丸い白い大きなおにぎり」だった。

前夜から何一つ口にせず、その空腹さえ忘れていた十二歳の少年にとつて、生きることとの接点を見出した瞬間だった。手にも余る大きなおにぎりをむさぼった時の安堵感は、今も記憶から消えていない。炊き出しに協力し、心を込めて握ってくれた村人たちの行為、おもしろいやり、愛情が肌で感じられたからである。

あれから70年、私はあの夜に出会った「アメリカという国」を追い続けるジャーナリストの道を今も歩む。日本とアメリカのみならず、中国、韓国との歴史和解の達成にも挑戦を続ける。

四年前の三月十一日、東北大震災の惨状を伝えるテレビは、あの日の朝の福井市内の焼け跡と何一つ変わらない、津波に舐めつくされた町や村を映していた。そして同じテレビは、避難所で70年前のあの日と同じ「真ん丸い白い大きなおにぎり」が配られる様子を伝えていた。不思議なことにごうごうした救援の「おにぎり」には三角形のものはない。

私が品格を感じるのは、こうした丸い「おにぎり」である。

まつお・ふみお
1933年東京生まれ。共同通信社入社後、バンコク支局長、ワシントン支局長、論説委員、常務取締役、共同通信マーケティング代表取締役社長を歴任。2002年ジャーナリストに復帰。著書に「銃を持つ民主主義―アメリカという国」のなりたち―「オバマ大統領がヒロシマに献花する日」など。好きなおむすびは「鯉節入りのおにぎり」。